

地方独立行政法人山口県産業技術センター評価委員会（第40回）の審議要旨

- 1 日 時 令和7年7月30日（水）15:00～16:20
- 2 場 所 山口県産業技術センター 多目的ホール
- 3 出席者 山田委員長、岡藤委員、山崎委員、山下委員、吉村委員
(委員長を除き50音順)

《内 容》

I 委員長選出

委員の互選により、山田委員を委員長に選出

II 審議事項

- ・地方独立行政法人山口県産業技術センターの役員に対する報酬等の支給の基準の変更について
 - ・令和6年度における業務の実績に関する評価について
 - ・令和6年度における財務諸表等について
- 資料1～9及び補足資料1～6により、事務局及び法人から説明

《資料説明後、質疑応答・意見交換》 ●委員 ○法人

I 地方独立行政法人山口県産業技術センターの役員に対する報酬等の支給の基準の変更について

《各委員から意見等なし》

(委員長)

- 山口県産業技術センター役員報酬等規程の一部改正については「意見なし」とする。
《各委員了承》

II 令和6年度における業務の実績に関する評価について

＜関係機関等との連携の推進について＞

- 様々なところと連携をしっかりとされており、今後の発展性の高い取組も含まれているなど、評点を「4」に引き上げてよいのではないかと。
- 研究資金の獲得支援をセンターが担っているのは本当に大事なことである。
- 評点の引き上げについて、同じ考えである。宇部市と合同記者会見を行った2件について、研究開発の獲得資金はどのくらいの額か。
- 1件は、「やまぐち産業イノベーション加速化補助金」のカタパルト枠として500万円、宇部市補助金で125万円を獲得している。また、今年からは3年間通じて9,500万円の補助額で、間接費を含めると、約1億3,000万円の補助金につながっている。

もう1件は、「やまぐち再生医療等実用化・産業化推進補助金」に採択され、県と宇部市の補助金を合わせ、3年間を通じて1億3,500万円の補助となっている。

(委員長)

- 法人の自己評価では、評点が「3」とされているが、十分に様々な連携を進めていることを評価して、評点を「4」とすることを委員会として提言する。

《各委員了承》

<提案公募型事業の獲得支援について>

- 提案公募型事業の獲得件数が、目標値の21件に対し、45件の実績となっており採択率が高い。要因として、イノベーション推進センターの設置など体制の強化について説明があったが、コーディネーターの関わりはどのように影響しているか。

○プロジェクト推進部に企業出身のコーディネーター10名のほか、関連企業からの出向としてイノベーションプランナー3名を配置している。充実した体制となっており、経験を積む中で非常に高いコーディネート力がついてきたものと考えている。また、脱炭素やDXなど新しい補助メニューに積極的に応募していることも成果につながっている。

<認知経路について>

- 補足資料5「認知度等調査結果概要」において、センターの認知経路として「センターウェブサイト」との回答が15.6%になっており、ホームページの果たす役割の大きさを確認した。以前よりも格段に見やすくなっており、引き続き頑張ってもらいたい。

<中小企業の資金獲得支援について>

- 中小企業は目の前の仕事で手一杯で、国等の補助金や助成金を獲得するための資料作成が非常に大変である。この部分の支援をセンターが行っているのはありがたいことと思う。

<中小企業へのPRについて>

- センターが外部の研究開発資金の獲得への支援もしているということは、中小企業に対してもっとPRしてもよいのではないかと。

<体制の強化について>

- 体制強化が、提案公募型事業獲得件数等の達成度に反映されたということは、今まで何か問題意識を持っていたのか。

○カーボンニュートラルや、半導体、蓄電池、水素など今後需要が伸びることが

予想される分野を強化したことや、県等の補助メニューとがうまくマッチしたのではないかと考えている。

<広報について>

- 中小企業にとっては、センターの支援内容や相談レベルがわかりにくいとか、敷居が高いといった部分があると思う。ここがクリアされると、さらに活用されてよい組織になるのではないか。成功事例のPRも含め、今後も様々な企業に使ってもらえるように取り組んでほしい。

<博士号取得者数について>

- 博士号取得者数が他県と比較してやや少ない印象である。数年前から博士後期課程の修学助成を導入しているが、最近の若い職員の取得希望はどうか。
- 若い職員が増えてくると、キャリアアップの観点から取得が進むのではないかと思うが、最近はあまり採用できておらず、研究員の年齢構成が高齢化しつつある。ある程度の年齢の職員は、実務に重点的に取り組んだり、技術士を取得するなどによりキャリアアップを図っている。

<相談窓口について>

- 中小企業にとっては、タイミングや相談方法などのハードルが高く、突然行って相談は難しいと思う。決まった曜日に相談窓口を設けるなどするとよいのではないか。
- 十分周知されていないのかもしれないが、技術支援部の中の技術相談支援室は何でも相談できる窓口になっており、そこから、各部署や研究開発プロジェクトにつないだりすることができる。

(委員長)

- 次回の評価委員会では、評価書素案に関する意見について審議したい。
《各委員了承》

以 上